

株式会社クレハ  
第110回  
定時株主総会



2023年6月27日

A large teal triangle with a halftone dot pattern, pointing downwards, located on the left side of the page.A large teal triangle with a halftone dot pattern, pointing upwards, located on the right side of the page.

開 会

**すべての議案の審議に必要な定足数を充たしております。**

**監査報告は招集ご通知に記載のとおりです。**

＞ 招集ご通知 36頁～41頁

**1. 報告事項の報告**

**2. 議案の上程**

**3. 報告事項および決議事項に関する質疑応答**

**4. 議案の採決**

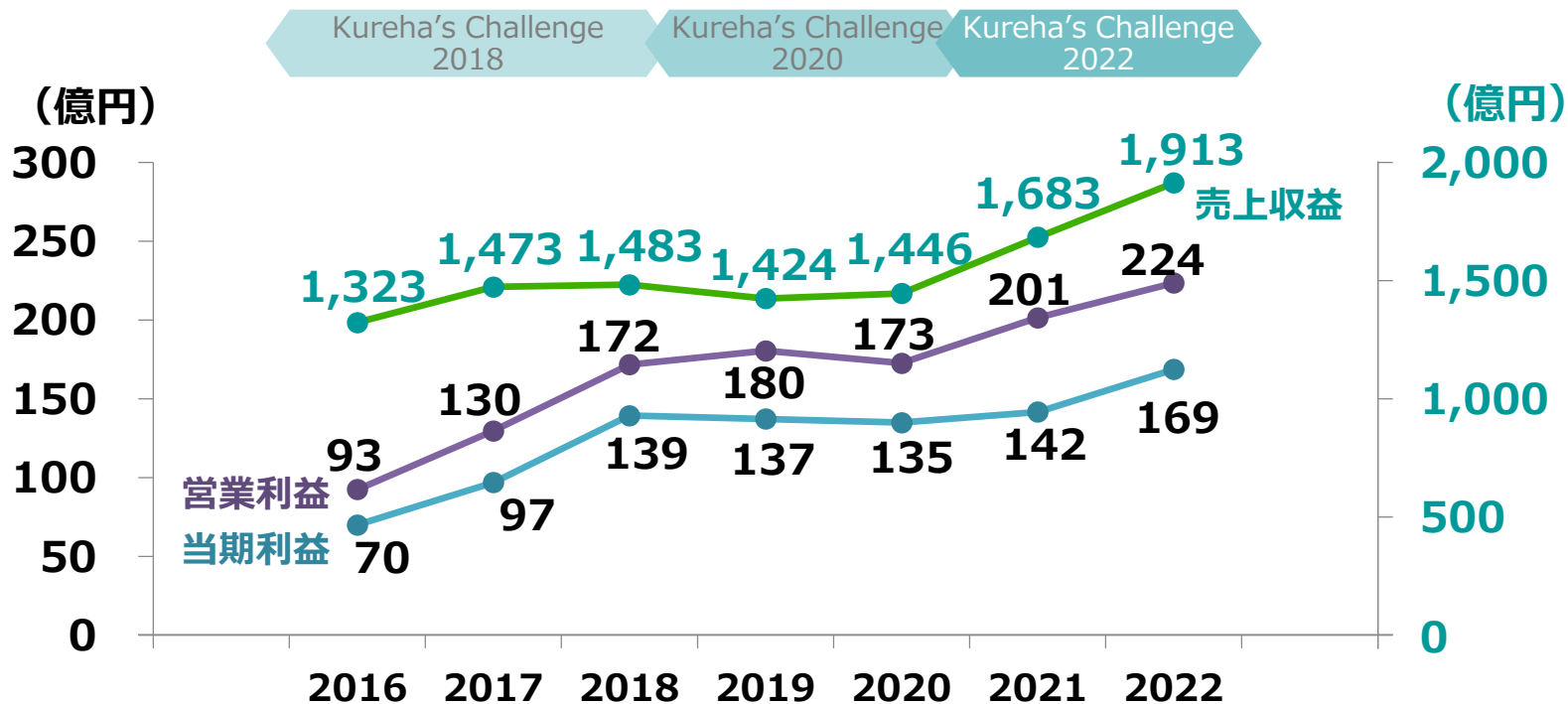
# 報告事項の報告

1. 第110期事業報告および  
連結計算書類報告の件
2. 第110期計算書類報告の件

> 招集ご通知 5頁～35頁

> 当社ウェブサイトに掲載

# 連結決算推移 (2016~2022年度)

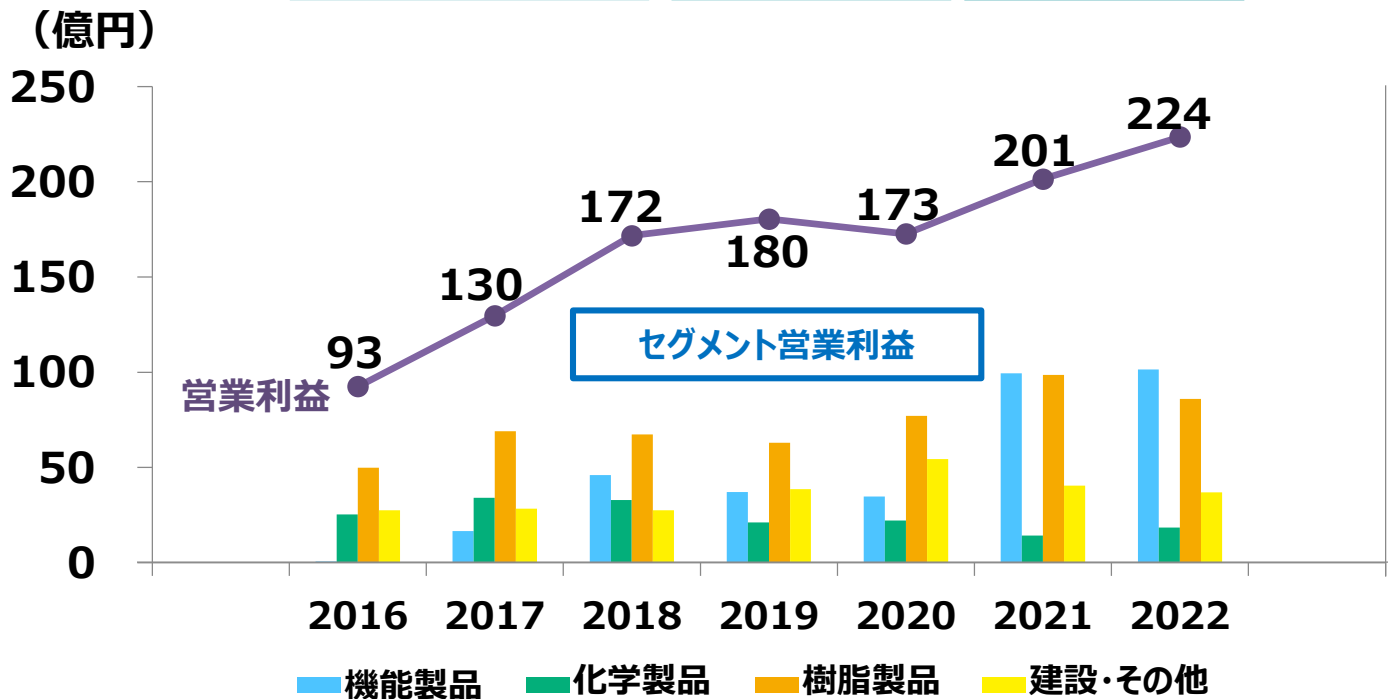


# 連結決算推移 (2016~2022年度)

Kureha's Challenge  
2018

Kureha's Challenge  
2020

Kureha's Challenge  
2022



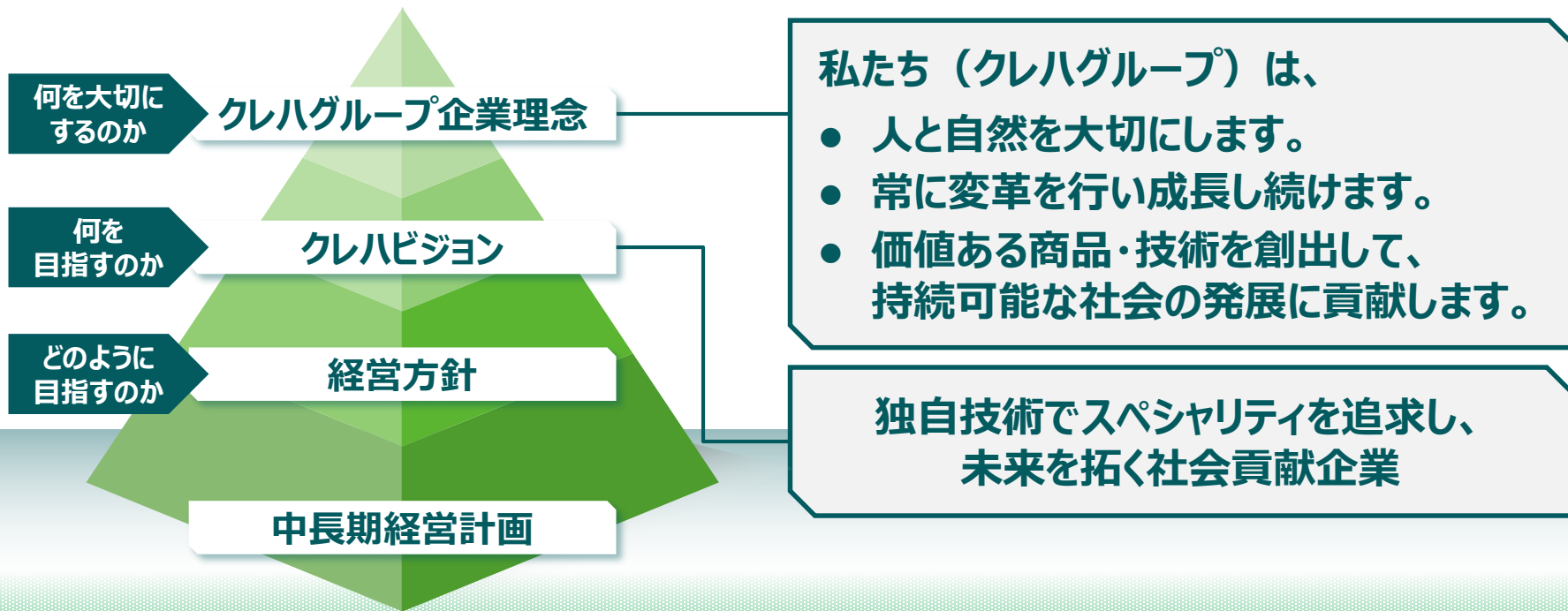
ROE	5.8%	7.1%	9.0%	8.4%	7.7%	7.4%	8.1%
-----	------	------	------	------	------	------	------



# 対処すべき課題

> 招集ご通知 10頁～13頁

収益性向上による中長期的な企業価値の向上と  
持続可能な社会への貢献を同時に実現する「サステナビリティ経営」に向けて  
新中長期経営計画を策定



## サステナビリティ経営の実践



目標

継続的な  
経済価値の向上

社会課題  
解決への貢献

環境負荷  
低減への貢献

最重要  
施策

技術立社の  
再興

経営基盤の  
強化

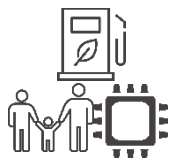
会社と社員の  
共生

『独自技術でスペシャリティを追求し、未来を拓く社会貢献企業』を  
どのように目指すか、3つの目標と3つの最重要施策を『経営方針』として制定

# 2030年度のありたい姿実現に向けて



「**経済価値**」のみならず、環境課題に代表される社会課題解決への貢献が「**社会価値**」として重要度が増していることから、業績目標と環境負荷低減目標の双方に定量目標を設定する。



「**環境・エネルギー**」、「**ライフ**」、「**情報通信**」の各分野における社会課題の解決に貢献する商品・サービスにより収益を上げる。



**環境負荷低減**については**エネルギー起源のCO<sub>2</sub>排出量の削減**および**廃棄物のゼロエミッション**に取り組む。



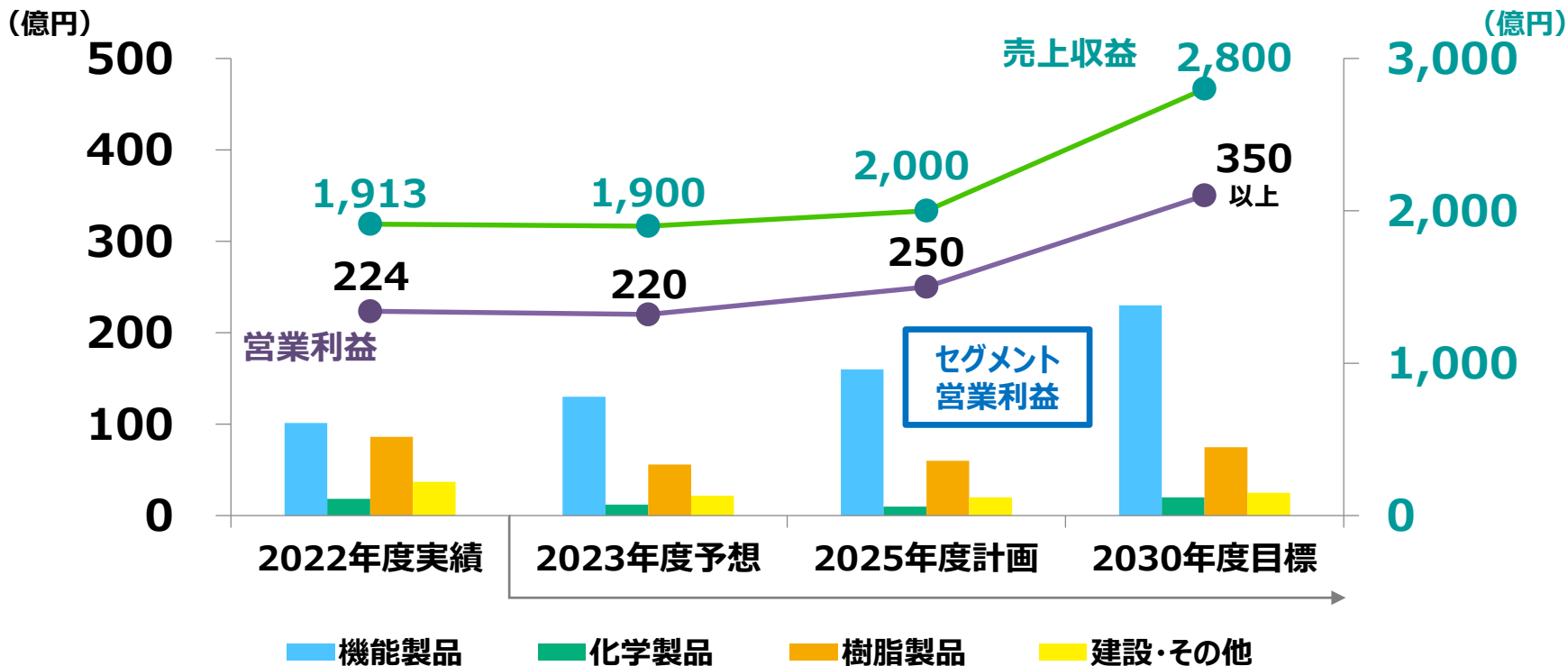
業績向上ならびに環境負荷低減の根源をなす研究・技術開発力の強化により、**技術立社の再興**を図る。

## 2030年度定量目標

売上収益	2,800億円
営業利益 (%)	350億円以上 12.5%以上
ROE	9%以上
エネルギー起源の CO <sub>2</sub> 排出量削減	2013年度比 30%以上
廃棄物ゼロエミ率*	1.5%

\*廃棄物ゼロエミ率：産業廃棄物の最終（埋立）処分量÷総発生量

# 業績目標



ROE	8.1%	7.2%	8.0%	9%以上
-----	------	------	------	------

# 環境負荷低減目標

CO<sub>2</sub>排出量削減

30%以上

(2013年度実績比)

廃棄物ゼロエミ率

1.5%

2013年度比エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量

30%以上  
削減

カーボン  
ニュートラル

2013年度

2019年度

2020年度

2021年度

...

2030年度目標

...

2050年度目標

## 配当性向

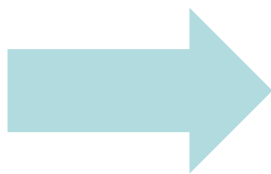
将来の事業展開に向けて内部留保を充実させつつ、安定した株主配当を基本方針とし、目標配当性向を30%以上とする。 **2023年度配当性向予想 31.7%**

## 総還元性向

総還元性向は50%以上を目標とし、2025年度末までの3年間に200億円程度の自己株式を取得。そのうち2023年度には100億円（または120万株）を上限とする自己株式取得を実行。 **2023年度総還元性向予想 96.2%**

配当性向

自己株式の取得

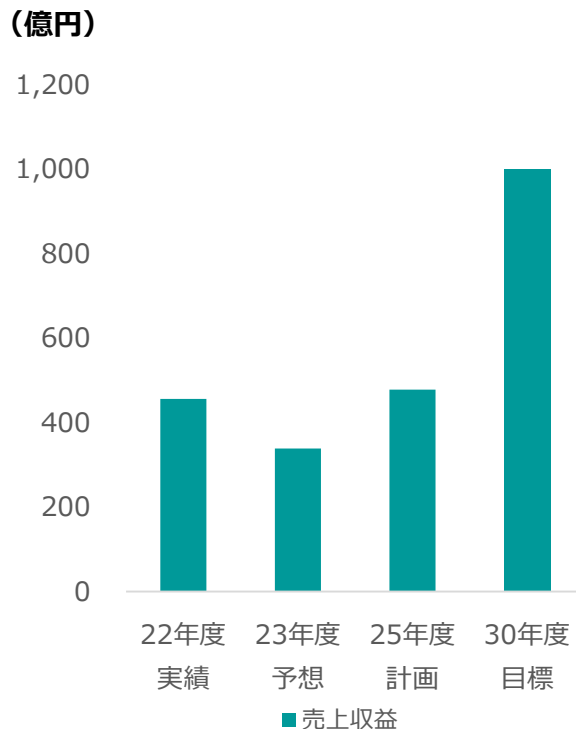


業績に応じた配当

一株当たり利益・  
純資産の改善



## フッ化ビニリデン樹脂の販売計画



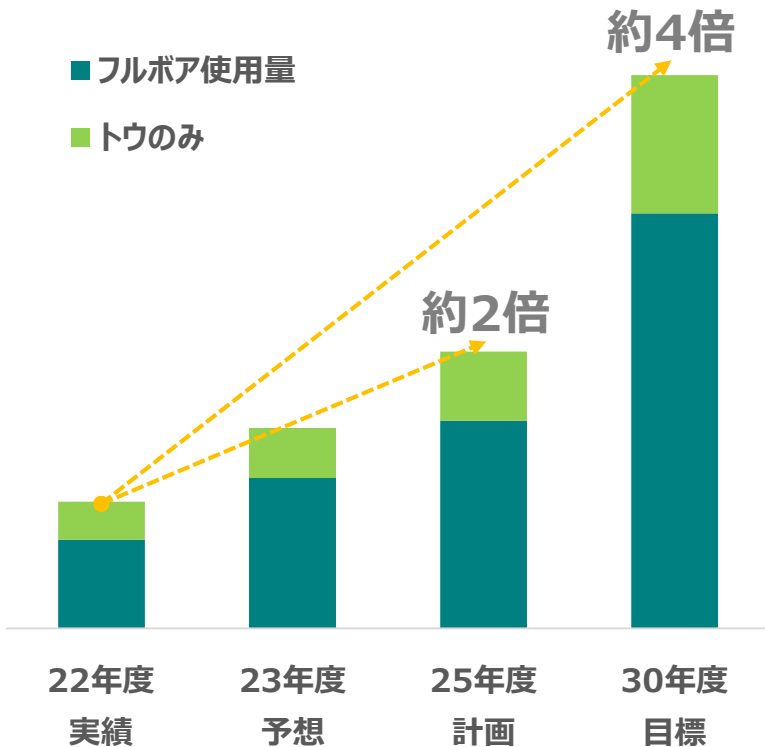
## 継続的な成長に向けた施策

	中国 (LFP* <sup>1</sup> 中心の市場)	欧州 (三元系* <sup>2</sup> 中心)	北米 (三元系* <sup>2</sup> 中心)
<b>生産</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバルでの最適な供給体制の構築 (11,000 → 30,000トン以上/2030年度)</li> <li>当面、既存プラントのデボトルネックで10%以上の能力増</li> <li>次の能力増強は中国工場の認証遅延を受け、いわき事業所での増強を検討中 (2025年度完成予定)</li> </ul>		
<b>研究開発</b>	●LFP向けバインダー開発	●接着性に優れたバインダー開発	
	●次世代電池向けに関しても研究開発を実施		

\*1：リン酸鉄リチウムを主成分とする正極材を用いたリチウムイオン電池。

\*2：ニッケル・マンガン・コバルトを主成分とする正極材を用いたリチウムイオン電池。

## PGAプラグ販売量



## シェールオイル・ガス市場環境

米国の原油の生産量はコロナ禍以前の90%以上の水準まで戻り、ガスの生産量は既にコロナ禍以前の水準を超過。

原油・ガスの生産量は、安定した経済成長による需要増をベースにして緩やかに増加する傾向が続くと推定。

## 「安定的な黒字化」に向けて（2025年度までに達成）

### ①販売

- ・中・高温域でのフルボア訴求によるシェア増
- ・PGAプラグのショート化により分解時間の短縮が図れる等、機能性向上
- ・低温・超低温鉍区参入と北米全体でのシェア増

### ②事業コスト

- ・スリム化された事業運営体制を継続（2023年度～）
- ・継続的なコストダウン策の実施

### ③新規事業機会の創出

- ・PGAの機能が活かせる新規アプリケーションを開拓

過去より積み重ねた事業および技術的知見をもとに、社会の課題解決に資する新製品を創出する。

〈注力事例〉

## 新農薬

- 殺菌剤用途での新農薬の開発・販売
- 長年殺菌剤に特化してきた高い技術優位性により性能の差別化を図る
- ファブレスビジネスによる高い資産効率性

## 炭化ケイ素 (SiC) 繊維

- 航空機エンジン部材向けに SiC繊維を原料とした製品の製造・販売
- 航空機エンジンの軽量化による航空機の燃費の向上が見込まれる
- 高性能および価格競争力で差別化

## 3Dタッチパネル

- ウェアラブル機器、スマートフォン、ノートPC等向けにフッ化ビニリデン樹脂を原材料とした3Dタッチパネルの製造・販売
- シンプルな構成の3Dタッチパネルで、製造コスト削減に寄与  
誤作動が少なく、省エネ、透明性に優れる性能で差別化

**新中長期経営計画『未来創造への挑戦』をスタートいたしました。当社ビジョンである「独自技術でスペシャリティを追求し、未来を拓く社会貢献企業」の実現に向けて、「パッション」「スピード」「コミットメント」を掲げ取り組んでまいります。今後とも何卒、ご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。**

**株式会社クレハ**  
代表取締役社長 小林 豊